

入選

誰かのために自分にできること

広島県 宇品中学校

三年 稲本 佳奈

7月半ばに梅雨が明け、気温と湿度がぐんぐん上昇し、熱中症で搬送される人が増えてきたニュースを見ていたとき、

「保冷剤 20 個以上たまったら、そろそろ小学校の保健室に持って行ってあげたら？」

と母が言った。

保健室では、ケガや熱など患部を冷やすために保冷剤を使う。保健室の先生から借りたまま、返さない人がいるため、すぐに足りなくなるという話を聞いてから、私の家では保冷剤を捨てずためておき、保健室に寄付をし、再利用してもらうことにしている。

中学一年の 6 月に持っていったのを最後に、新型コロナウイルス感染防止のため小学校に行くことをやめていた私は、「コロナで受け取ってもらえないかもよ。」と言った。

でも、保冷剤が不足していたなら、困る小学生がいるかと思うと、やっぱり持って行ってあげたい。保健室の先生が、安心して受け取るためにはどうすれば良いかと考え、消毒をして持っていくことにした。「ベンザルコニウム塩化物液」を水で薄めたものに、保冷剤をつけ置きし、家に 10 数枚残っていた小さいサイズの使い捨てマスクといっしょに、次の日渡しに行った。

久しぶりに保健室の先生に会いに行き、紙袋を差し出すと、

「もしかして保冷剤？わざわざ持ってきてくれたの！？助かるわ、ありがとう！！」

とすぐに受け取り、中身を確認してくれた。『コロナ禍なので、消毒液名と消毒済みです』と書いた紙と、小さめサイズのマスクを見つけると、近くにいた事務の先生に、

「小学生のときから、こうやって持ってきてくれてるんですよ。しかも消毒までして、助かるわ！欲しいなって思っていた小さめのマスクも。本当に幸せ！」

と、すごく嬉しそうに話してくれた。事務の先生からも、

「ありがとうございます。」と感謝され、やっぱり持ってきてよかったと、嬉しい気持ちで胸がいっぱいになった。友だちやお会いした先生方に、

「保健室に保冷剤を持っていつている。」と言うと、ほとんどの人に、

「えっ、そんなことしているの！なんで!？」

と驚かれる。どこの家の冷蔵庫にも必要以上に入っているが、使うことはあまりない。姉が始め、私が引き継いだ保冷剤の寄付は、ケガをした小学生の助けに役立っており、誇らしく思う。

また、保冷剤を消毒して持っていったことで、このコロナ禍で、自分ならこうしてほしいと考え、行動をすることの大切さに気づくことができた。

これからも相手の立場に立って考えること、相手を思いやることで、自分の心に温かい気持ちを持ち続けていきたい。